

ホームページ公開用

## EGFR 遺伝子変異型非小細胞肺癌における血中ヘレグリン値と EGFR チロシンキナーゼ阻害剤の抗腫瘍効果の関係に関する後方視的研究」に関する患者様ならびにご家族様へ

### ○はじめに

非小細胞肺癌の一部の症例では細胞膜タンパクである EGFR を標的とした EGFR チロシンキナーゼ阻害剤が著効するため、EGFR 遺伝子変異型非小細胞肺癌の第一選択薬とされております。しかしながら同薬剤への耐性が問題となり、その克服が必要とされております。耐性の機序として、EGFR の二次的遺伝子変異の出現(エクソン 20 の T790M 変異)や MET 遺伝子の増幅による細胞内シグナルのバイパス経路の出現等が報告されておりますが、他の耐性の機序については不明であります。

本研究では血中のヘレグリン値と種々の EGFR チロシンキナーゼ阻害剤の抗腫瘍効果に関連がみられるかを検討いたします。

### ○対象となる患者様

初回の EGFR チロシンキナーゼ阻害剤治療前に採血された血液検体が保管されている症例。

### ○研究内容

血中のヘレグリンタンパクを測定し、治療効果との関係を調べたり、EGFR チロシンキナーゼ阻害剤治療前後での血中ヘレグリン値の変動を検討します。測定や解析は近畿大学医学部内科学腫瘍内科学部門において行われます。

### ○個人情報の管理について

あなたの名前や個人を特定できる情報は一切公開されません。

プライバシー・個人情報は厳重に守られますのでご安心ください。

上記研究への参加を希望されない患者様・ご家族様は下記研究責任者までご連絡下さい。また、お問い合わせなどありましたら下記までお願いします。

研究責任者ならびにお問い合わせ先

大阪府堺市北区長曾根町 1180

国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター

安宅信二

電話： 072-252-3021